

皆様、本日は祖霊大祭おめでとうございます。

誠に畏れ多いことではありますが、私どもの命は自分の命ではなく、主神の命です。

主神に命があるのです。

主神は、私どもを地上にお遣わしになる前、霊界と呼ばれる、すべての創造の原因の世界である天国において、私どもを、そして、すべてのものを生んでくださいました。

ですから、私どもの中には、主神の命があります。天国があります。

本日の祖霊大祭の二首目のお歌は、

「永久とこしえに人の生命はあるものと知りて初めて人たる人なり」という明主様のお歌です。

このお歌のように、私どもは、自分の中に主神の永遠の命があることを知って初めて、本当の意味で、生きた人間とならせていただけるのではないのでしょうか。

私どもは、誰であろうと、主神の命によって生きているもの、天国に属するものとされているのです。

このことを私どもが最も知らなければならない大切な事実として信じ、自分の中におられる先祖の方々と共に認め、認めさせていただいたことを、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神にご奉告申し上げる務めがあると思います。

そして、このようにして、主神にご奉告させていただくことが、先祖の方々を長い眠りから目覚めさせ、救い出すみ業にお仕えすることであり、先祖と共にある自分自身も、主神の命に目覚め、永遠に生きるものとならせていただくことになるのではないのでしょうか。

本日の祖霊大祭のお歌の三首目は、

「例しなき神業みわざに仕へ奉るこそ人と生れし此世こよなき幸なる」という明主様のお歌です。

私は、「例しなき神業みわざ」、今までにないご神業とは、私どもが何か特別に目新しいことを地上でしなければならぬということではないと思います。

その本当の意味は、私どものからだは地上にあっても、私どもが住んでいる場所は天国であることを思い出し、日常生活を始めすべてのことを通して、

すべてのものを天国に迎え入れるという想念の御用にお仕えすることであり、それが明主様の仰る「例しなき神業」、すなわち、全く新しい営みにお仕えすることであると思います。

そして、そのようにお仕えさせていただけることこそ、「人と生れし此世なき幸なる」とお詠みになりましたように、人間として生まれた最高の幸せなのではないでしょうか。

私どもは、自分の住んでいる場所は地上であるかのように感じさせられておりますが、私どもの住んでいる場所は、今も天国なのです。

私どもは、元々、天国において主神にお仕えしておりました。

そして、今も、天国において主神にお仕えする立場なのです。

地上に遣わされた私どもは、神様の御用にお仕えするという事を申しませんが、それは、あくまでも天国で主神にお仕えする立場を持たされているからです。

私どもが今日こうして祭典に参加させていただけるのは、天国という私どもの意識の中心において、主神に感謝し、主神をお讃え申し上げるという祭典に参加させていただく御用にお仕えしているからです。

皆様の「会う、聞く、浄霊」という御用も、皆様が天国において、すべてのものを天国に迎え入れるという主神の御用にお仕えしていらっしゃるから、地上という現象の世界でも、その御用にお仕えになることが可能なのだと思います。

明主様は、私どもが病気やいろいろなことで苦しんだり悲しんだりすることの中に、「浄化」という主神のお働きがあることをみ教えてくださいました。

それは、私どもが苦しみや悲しみなど、悪いことと感ずることだけではなく、喜びや楽しみなど、良いことと感ずることも、すべてのことにおいて、主神が天国に住む私ども一人ひとりの「想念」をお使いになって、すべてのものを赦し、浄め、救い、甦らせ、天国に迎え入れておられることを私どもに気づかせてくださろうとしているからであると思います。

私どもは、浄霊をさせていただく時、手をかざしますが、それは、主神の燦然と輝く大光明が天地万物一切を貫き、すべての人々の心の奥底にまで到達し、ご自身がお赦しになり、お救いになったすべてのものを、その力強く大きなみ手の中に、私どもを通してお受け取りになっていること、そのことを私どもが知る必要があるからであると思います。

私どもの想念は、主神がすべてのものをご自身のみ手の中に収めておられる、この御用にお仕えするための想念であるからこそ、私どもが浄霊の手を

かざすことをお赦しくださっているのではないのでしょうか。

ですから、私どもが、万物を始めすべての人々の中に主神の大光明が輝き、赦しと救いがすべてに及んでいることを認め、その栄光を携えて、すべてのものと共に自らを主神に委ねさせていただくという想念の御用そのものが、主神が最もお喜びになる浄霊の御用なのではないのでしょうか。

主神は、ご自身の子をお生みになるために、全人類をお赦しになり、過去の清算だけではなく、全く新しい創造の営みを、今お進めになっていらっしゃると思います。

この全く新しい創造の営みのために、主神は、私ども人間を必要とされていると思います。

そのみ心にお応えするために、私どもは、天国に立ち返らせていただかなければならないのではないのでしょうか。天国に立ち返って、主神の新しい創造の営みにお仕えさせていただかなければならないのではないのでしょうか。

天国に立ち返らせていただくということは、私どもの意識の中心には天国が存在し、今もその天国に属するものであること、そのことを思い出して、主神にご奉告させていただくことであると思います。

だからこそ、明主様は、お歌に、「永遠に冬なき夜なき天国に世人救はむはや来れかし」とお詠みになり、「冬もない、夜もない、永遠の世界である天国があなたがたの中にあるのだから、その天国に早く帰って来なさい。迎える準備はいつでもできているのだから」と仰って、一人でも多くの人が天国に立ち返ってくるようにと呼びかけてくださっているのではないのでしょうか。

このようにして明主様は、分け隔てなく、すべての人々を天国に迎え入れる主神の大きな愛が、私どもの中にあることを教えてくださっているように思います。

私どもは、人間の愛しか知りませんでした。

好きか嫌いか、愛せるか愛せないかというように、自分の価値判断に基づいて限定し区別する、人間の愛しか知りませんでした。

しかしながら、主神は、大光明輝く天国において、愛をもって私どもをお生みになった時に、ご自身がお持ちの「神の愛」を私どもに持たせてくださっていたのです。

私どもは、今まで愛というものを人間のものとしておりましたが、愛の源は天国にあり、その愛には、主神がご自身の子を生むという真理が貫いてお

ります。

明主様は、『大乘たれ』と題するみ教えの中で、「愛にも神の愛と人間の愛とがある。すなわち神の愛は大乗愛であるから、無限に全人類を愛するが、人間愛は小乗愛であるから、自己愛や自分の仲間、自己の民族だけを愛するという限定的であるから結論は悪になる」とお説きになり、私ども信徒に対し、「神の愛をしっかりと胸に畳んで」とみ教えくださいました。

明主様が神の愛をしっかりと胸に畳むようにとみ教えくださったのは、私どもの中心には、大乘愛という真^{まこと}の愛、「神の愛」が存在していることを、私どもに思い出させてくださろうとしておられるからではないでしょうか。

本日も、最後に私ども一同で「偉大なる御光」という曲を歌わせていただくことになっておりますが、その日本語の歌詞の中に「ああ御光の 御光の輝いて諸人一つに神の愛に結ばん」という言葉があります。

神様は今、「神の愛に結ばん」と仰って、全人類に救いの手を差し伸べて、天国に迎え入れ、すべてをご自身の愛に結んだことを私どもに告げ知らせてくださっております。

私どもは、神様の大きい愛と赦しがあればこそ、天国に立ち返らせていただける喜びをもって、この「偉大なる御光」という歌を、大きな声で力いっぱい歌わせていただきたいと思います。

終わりに、夜昼転換した今、私どもの中心には、燦然と輝く大光明と真の愛があることを思い出させてくださった明主様に感謝し、明主様と共にあるメシアの御名にあって、父母先祖の方々を始め全人類と共に、万物と共に、主神がお持ちの真の愛にお仕えさせていただきます。

ありがとうございました。

以 上